学びによる地域課題解決、高齢者の社会参画等の促進

資料４－１

（「社会教育を推進するための指導者の資質向上等事業」で実施）　30年度予算額　70,676千円の内数

これまで各地域で取り組んできた社会教育による地域課題解決の優れた取組や、地域力活性化等に資する先進的な実践を基に、各地域が共有する課題・問題の解決に向けて協議を行う**「地域力活性化コンファレンス」**、高齢者が学びを通じた地域活動へ参画しやすい仕組みづくりを促進し、多世代の共助・共創による地域活性化を図る**「長寿社会における生涯学習政策フォーラム」**を開催することを通じて、学びによる地域課題解決、高齢者の社会参画等の促進を図る。

地域力活性化コンファレンス（１箇所）

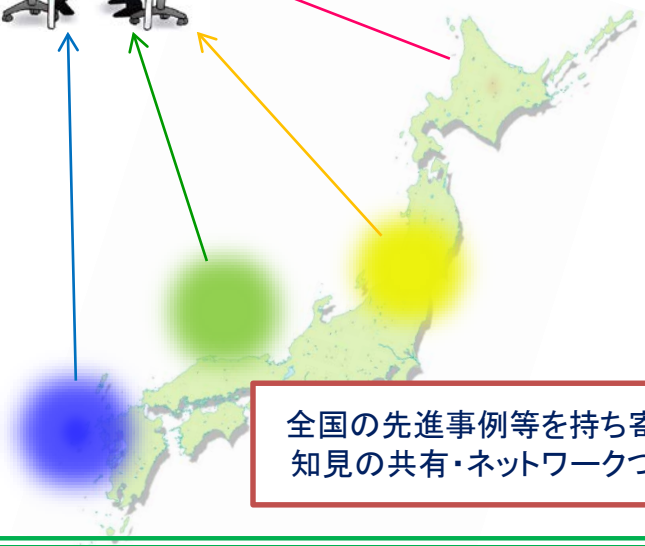
公民館等地域の「学びの場」を拠点として実施される地域課題解決の取組等を促進するため、これまで各地域で取り組んできた地域課題解決の優れた取組（まちづくり、防災、子供・若者支援など）や先進的な実践等において蓄積された様々な課題解決のノウハウ、プロセス等の成果を活用し、各地域が共有する課題・問題の解決に向けて協議を行う。

長寿社会における生涯学習政策フォーラム（１箇所）

地方公共団体担当者や高齢者の学習・社会参加に関わる団体関係者に加え、大学、企業等幅広い関係者の参画のもと、先導的な取組事例を紹介するとともに、パネルディスカッションやグループ討議等を実施し、得た知見やネットワークを地域の活動・支援等に還元する。

コンファレンス（Conference）

ー会議、協議会の意。
関係者間で共有する問題について協議すること。



全国の先進事例等を持ち寄り、知見の共有・ネットワークづくり

成　果

- ○ 公民館等の「学びの場」を拠点として、様々な主体との連携・協働のネットワークづくり
- ○ 活力ある地域コミュニティ形成のための学びによる地域の課題解決、地域力活性化の取組の促進
- ○ 高齢者をはじめとする全ての地域住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合う「地域共生社会」の実現

地域学校協働活動推進事業

（前年度予算額 6,435百万円）
３０年度予算額 6,012百万円

【補助率】
国 1/3
都道府県 1/3
市町村 1/3

幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進する。そのため、地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動推進員」の配置や機能強化により、「地域学校協働本部」の整備を推進するとともに、地域学校協働活動の基盤となる学びによるまちづくりや地域人材育成、放課後子供教室、地域住民等による学習支援（地域未来塾）、外部人材の活用による土曜日等の教育支援の取組を通じて、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。

就学前段階 → 小学校段階 → 中学校段階 → 高校段階 → 大学等段階

地域学校協働活動

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生するための活動

土曜日等の活用

外部人材を活用した教育支援活動 12,000箇所

民間企業等の多様な経験や技能を持つ外部人材の活用により、土曜日や休日等の特色・魅力のある教育プログラムを充実

児童の居場所

放課後子供教室 20,000箇所

地域住民等による小学校での放課後の学習支援、体験機会の提供及び居場所づくりを拡充。

放課後児童クラブとの一体型を中心とする放課後子ども総合プランの推進

地域未来塾 4,615箇所

地域住民の協力やICTの活用により、学習が遅れがちな中高生等の無料の学習支援を拡充。

貧困対策

●地域ブランドづくり学習 ●防災学習 ●課外活動補助
●ふるさと発見学習 ●地域行事への参画 等 6,000箇所

地域学校協働活動推進員及び統括的な地域学校協働活動推進員の配置拡充、人材の育成・確保（研修の充実、質の向上、ネットワーク化）を強化

A 地域学校協働本部

従来の学校支援地域本部等を基盤とし、幅広い地域住民や団体等の参画によりネットワークを構築し、地域学校協働活動を推進

地域学校協働活動推進員
（学校区レベル）
・地域住民等や学校との連絡・調整
・地域学校協働活動の企画・推進等

20,000人

青少年 大人 保護者・PTA 企業 NPO 文化団体 高齢者 スポーツ団体

C協働本部

統括的な地域学校協働活動推進員
（市町村レベル）
・未実施地域における取組実施を推進
・地域学校協働活動推進員間の調整
・地域学校協働活動推進員の資質や活動の質の向上

375人

B協働本部 A協働本部

地域学校協働活動の事例

大人も子供も共に育とう
～「幸ケ谷共育倶楽部」による地域学校協働活動～　（神奈川県横浜市立幸ケ谷小学校）

活動概要・目的

○「幸ケ谷共育倶楽部」として、地域住民、保護者、教師を目指す学生等が教育支援ボランティアとして登録し、子供たちの学習活動や学校の教育環境をサポートするネットワーク。

○ 平成21年に地域住民や保護者のサークル的な活動（ブックママ、クラブ活動のサポート等）を一つに組織化したのが始まり。

○ 学習サポート部門、読書サポート部門、安全見守り部門、栽培緑化環境部門で構成。会員数約２４０人（H28年度）

学校からのサポート依頼 → 幸ケ谷共育倶楽部 ← 地域住民、保護者、学生などが登録

※内容に応じてボランティアを依頼

学習サポート部門	読書サポート部門	安全見守り部門	栽培緑化環境部門
校外学習、家庭科調理実習、水泳学習、遠足、社会科見学、クラブ活動等の支援を実施。	読み聞かせグループと本の修繕・装飾を行うグループに分かれて活動を実施。	登下校時の見守り、授業参観時の受付、校外学習付き添いなど幅広く活動。	校庭の芝生整備(苗作り、芝刈り、毎日の水やり等)やパンジープランター作りなどを実施。

活動における工夫・ポイント

○ 学校・地域コーディネーターが、学校のオーダーシートに従って効果的にボランティアを割り振り。

○ 学習サポートでは、SNS（らくらく連絡網）を活用し、ボランティアへの連絡調整を円滑に実施し、教員の負担も軽減。

○ 学校内に倶楽部の事務局を設け、コーディネーターと校長や教職員との情報交換を密に行えるようにしている。

活動における成果

○ 学校と連携・協働して年間を通して活動を実施し、平成２８年度の延べ参加人数は1,900人を超えるなど、地域住民や保護者が積極的に学校にかかわり、子供たちの安全や学びを見守っている。

○ 子供が卒業した後もほとんどの人が会員を継続しており、大学生になってからボランティアメンバーとして戻ってくる卒業生もおり、幅広い地域住民による活動への参画の輪が広がっている。